



富士レビオ株式会社
環境報告書
2007

富士レビオグループは 世界の医療に貢献します

当社は創業以来、「世界の医療に貢献する」という経営理念のもと、主に臨床検査薬の分野で優れた製品・技術・情報などを幅広く提供することにより、より価値の高い「グローバル・ライフ・サイエンス企業」の実現を目指しています。

世界の医療に携わる現場では、さまざまな疾病を克服する治療薬の開発が積極的に行われており、同時に疾病の早期発見・早期診断をするための臨床検査薬*や、検査機器などの開発が強く求められています。

当社の主要製品であるエイズや大腸癌、肝炎などに関連する臨床検査薬は、国内外の臨床の現場で使用され、また、臨床検査薬と検査機器を含めた「ルミパルスシリーズ」は、検査のトータルシステムとして、国内外の高い評価を得ています。

当社は今後とも、人の命を尊び、人の健康を守ることに自覚と責任を持ち、新しい価値の創造を通して、世界の医療に貢献していきます。

* 臨床検査薬：人体に直接使用されず、血液・尿等を検体として、検体中の物質や生物活性を測定または検出し、疾病の診断を行うために使用される検査用試薬

会社概要 (2007年3月31日現在)

社 名：富士レビオ株式会社
設 立：2005(平成17)年7月11日(新設分割)
本 社：〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-62-5

TEL: 03-5695-9200 FAX: 03-5695-9230

代表者名：代表取締役社長 鈴木博正

事業内容：臨床検査薬、検査用機器の製造、販売及び輸出入

資本金：22億5,200万円

事業所：八王子事業所、帯広事業所、宇部事業所、
F-MAC (メディカルアニマルセンター)、物流センター、
東日本支店(本社内)、札幌出張所、仙台営業所、北関東営業所、
千葉営業所、横浜営業所、名古屋営業所、京都営業所、
西日本支店(大阪)、広島営業所、福岡営業所

従業員数：563名

社名の由来

社名の一部の「レビオ」とは、蘇生を意味する「RE」と生命をあらわす「BIO」からなり「生命の蘇生(よみがえり)を願う」という当社の創業以来の夢と目標をあらわしています。



編集方針

昨年発行した報告書は、発刊2号として、ステークホルダーの皆様の信頼を高めるため、富士レビオがどうあるべきかをお伝えする目的で環境に対する取り組みを「わかりやすく伝える報告書」を目指して編集させていただきました。

3号目となる今回はさらに一歩進んで、当社の環境に対する「考え」、環境保全活動に取り組んでいる従業員の「想い」が伝わる報告書を目指しました。地域社会の皆様には当社の環境活動を各サイト紹介や従業員の声を通して、事業活動への理解を深めていただけるように、株主様へは「社会的責任報告ツール」として「事業活動と環境活動は等価である」という当社の姿勢と取り組みを示し、社会的責任に対する考えをご理解いただけるよう配慮しました。従業員には方針と内容の連動性に配慮し、日頃の環境活動が会社の方針につながることを感じてもらえるように努めました。

また、新企画として「ISO14001:2004規格解釈討論会」を外部審査機関の講師をお招きして実施し、その内容を紹介しています。環境活動の充実の側面では、2006年にグループ会社「株式会社テイエフビー」がISO14001全事業所の認証を取得し、さらに2007年もサイト拡大による認証の拡大を計画しており、グループ丸となって環境負荷低減への継続的改善を進めています。

「環境報告書 2007」は以下の三つのことを重視して編集にあたりました。

1. 網羅性への配慮

作成にあたっては体系的な開示情報を目指すために環境省の「環境報告書ガイドライン」を参考にしています。

2. 信頼性への配慮

本報告書信頼性向上のために「第三者意見」としてISO14001審査機関(テフズードジャパン社)、認証機関(テフズードマネジメントサービス社)からのご意見をいただいています。

3. 理解容易性への配慮

掲載にあたっては、活動内容をよりわかりやすくご理解いただけるように、章構成・レイアウトを考慮し、写真等を使ってビジュアル面に工夫しました。

* 富士レビオ株式会社の環境報告書は、年次報告書として発行するとともに、ホームページには英語版も併せて掲載しています。

Contents

会社概要	1
編集方針/「環境報告書 2007」について	2
社長メッセージ	3~4
環境方針	4

特集：環境座談会

ISO14001:2004規格解釈を通じて環境マネジメントシステムの運用を考える	5~6
--	-----

事業活動と環境とのかかわり

富士レビオの事業活動と環境への影響	7
-------------------	---

環境への取り組み

環境マネジメント活動	8
2006年度環境目標と実績	9~10
環境パフォーマンス(コラム、トピックス)	11~14
サイトの活動	15

地域社会とのつながり

地域社会への貢献	16
環境報告書に対する第三者意見	17
編集後記	18

「環境報告書 2007」について

- 対象期間：2006年4月1日~2007年3月31日
- ※ 当社の決算年度が変更になったため一部過去のデータで1~12月のものが存在します。なお、本報告書での原単位は、それぞれの数値を全事業所(サイト)の労働時間の合計で割ったものです。
- 対象範囲：富士レビオ株式会社全事業所
- 次回発行予定：2008年8月

環境活動でグループ全体を牽引し、社会的責任を果たします



近年、地球温暖化などに代表される、地球規模で取り組まなければならない多くの課題があり、京都議定書に基づいた対応を推進している日本政府にとっても重要な課題になっています。このような背景から、企業にはその社会的責任として、環境保全への積極的な取り組みが要求されています。

富士テレビオは「人の命を尊び、人の健康を守ることに自覚と責任をもち、新しい価値の創造を通じて世界の医療に貢献する」という経営理念のもと、臨床検査事業を通じて社会と医療に貢献することを目指しています。その実現に向けた環境方針の一つとして、環境保全に万全をつくり、地域社会との良好な関係維持に努めることを掲げ、従来から継続して環境負荷低減活動に取り組んでまいりました。その基盤ともいえるエネルギー使用量、CO₂排出量および廃棄物の削減などに関しては、全社目標として設定しており、その成果も上がってきているといえます。

また、当社は医薬品製造・販売に携わるものとして、お客様に提供する製品が環境に配慮されているという重要性を認識し、2005年に「製品アセスメント基準書」を全面改訂し、環境に配慮した製品づくりに本格的に取り組み始めました。現時点では、一部の使用消耗品に削減等の効果が得られておりますが、商品の性能仕様との関係から十分とはいえない推移と考えております。

将来的には商品設計から原材料調達、製造、販売に至るサプライチェーンのすべての過程を総合的に評価し、地球にやさしい「ものづくり」を実現するよう努めてまいります。

環境活動は、「事業活動に並行するもの」であり、事業活動は、「社会にいかに関与するかという命題に答えるもの」であるという考えに基づいて、当社の環境マネジメントシステムでは、「なぜ環境活動を実施するのか」をそれぞれの職場で議論し、その結果を目標設定や活動内容に反映する仕組みをとっています。このような環境活動に関する意識浸透にむけた活動についても、徐々に成果が上がってきていると考えております。

当社は持株会社である「みらかホールディングス株式会社」のグループ事業会社であり、それぞれのグループ事業会社の経営層と従業員が一体となって業績の向上と業容の拡大にむけて邁進するとともに、企業の社会的責任(CSR)を果たしていくことが重要と認識しており、当社の環境活動は、みらかホールディングスのCSR活動推進において牽引的な役割を担うものであると考えています。

本報告書では、当社の取り組みをわかりやすくお伝えするよう努めました。ぜひご一読いただき、忌憚のないご意見をいただけますよう、お願い申し上げます。

代表取締役社長 鈴木 博正

環境方針

1. 地球にやさしい「もの」創り

商品の設計から使用後の廃棄にいたるまでの環境負荷低減を考慮し、地球にやさしい商品創りを目指します。

2. 汚染の予防・防止

事業活動にともなう化学物質及び微生物等の安全管理を徹底し、環境汚染の予防、防止に積極的に取り組みます。

3. 省エネ、省資源、リサイクル

全ての部門で無駄の排除を行い、省エネ、省資源及びリサイクルに取り組めます。

4. 関連法規の遵守

当社が適用を受ける環境関連法規制・条例・地域協定などを明確にし、遵守します。

5. EMSの改善・向上

設定した環境目的・目標は定期的に見直し、環境マネジメントシステム(EMS)の継続的な改善・向上を図ります。

6. 組織と権限の明確化

環境マネジメントシステム(EMS)に関する組織と権限を文書化して明確にし、これに基づいて全社員で行動します。また協力会社に対しても理解と協力を求めます。

ISO14001:2004規格解釈を通じて 環境マネジメントシステムの運用を考える

テフズードジャパン株式会社の河田氏を講師にお迎えし、ISO14001:2004規格運用に関して、内部環境監査を実施する上での規格解釈上の疑問点や判断等についてうかがいました。
環境マネジメントシステム(EMS)を浸透させるにはどうすべきか。
参加した内部環境監査員にとって、認識を新たにすよい機会となりました。

環境活動と業務との融合を目指して

鈴木 ISO14001の規格に沿ってEMSを展開するなかで、生産・技術系サイトは環境活動が組織業務に溶け込んできていますが、事務系サイトでは、環境側面、環境影響評価から環境活動計画の立案、実施に至る考え方の整理に苦労しています。システムを運用する上では非常に重要なポイントなのですが、事務系サイトでは、P(環境方針・計画)、D(実施・運用)、C(点検)、A(マネジメントレビュー)をそれぞれの業務目標に連動させて企画することを要求される一方で、業務連動性が希薄であることから、システムが円滑に回らなくなってきています。

吉野 内部環境監査をしていると、生産・研究系サイトでは環境活動と業務が連動していますが、事務系サイトでは業務と切り離れた特別の活動になっています。これがシステムを重く感じさせている原因ではないでしょうか。それならば、業務の効率化や環境活動の質的向上を目指して「環境活動と業務の統合」を真剣に考えなければならないと思います。

阿部 環境活動と生産活動が一体になれば、監査側、被監査側ともに利点は大きいと思います。環境活動と業務が融合し、数値目標にむけて活動することで、全体のモチベーションも上がるでしょう。こういう環境を整える提案をするのも、監査員の仕事ではないかと思えますね。



杜澤 八王子工場では廃棄物やエネルギーを工程改善によって削減することが目標なので、環境活動と業務が密接な関係にあります。業務を遂行することが環境活動に参画することにつながっており、全員の環境への意識も強くなっています。

河田 事業所や組織の成果は、生産活動が品質管理システム(QMS)やEMSとうまくバランスのとれた仕組みになっていなければ生まれませんね。このような観点から見ると、環境活動と業務の融合は必然的ではないでしょうか。



テフズードジャパン株式会社 河田氏

EMSを円滑に機能させるために

鈴木 実際の活動面で、環境影響評価が一番煩雑だと思います。事務系サイトでは、内部・外部監査の都度指摘され、それに対応するために徐々にシステムが重くなってしまおうと声が上がっています。この点はいかがでしょう。

大塚 生産・技術系サイトと事務系サイトでは本来業務に違いがありますから、一律の目標を設定するには無理が生じますね。

鈴木 2006年度からはサイト事情を考慮した目標設定をしていますが、環境担当者だけが頑張ってもEMSは機能しません。サイト責任者や担当者は自サイト内のEMSが要求事項を満たすためにどのような手順になっているか、勉強しなければならないと思います。EMSが機能しているサイトでは、独自の手順書を作成するなどの工夫がなされています。

山本 「EMS=とっつきにくい」という印象を持っている従業員が多いのが難点ですね。私の所属するティエフビーでは、環境活動は指示通りに実施するけれど、理解はしていないのが大半でしょう。EMSを抵抗なく理解できるような教育を継続的に実施すれば、環境活動に対する意識も向上すると思えますね。

上河内 E(環境)とMS(マネジメントシステム)を切り離して考えている人が多いので、自覚や理解度が低く、全体の環境活動は希薄です。環境活動と業務を連携するには、各人の「心」の問題が障壁となっています。教育を通じて、監査員である私自身を含めた、一人ひとりの自覚を促したいですね。

河田 EとMSを分けて考えている人がいても、環境活動が停滞・遅延しなければよい、というところから始めるべきではないでしょうか。理想のレベルに達したほうがよいのは当然ですが、全員が決められたルール通りに実施することから進めれば問題ないと思えますね。

従業員の意識向上が活動の鍵

大塚 EとMSが分離解釈されている根本は、従業員の意識にあると思います。教育訓練等による意識向上も必要ですが、日常的な活動の結果が見える形にすることで、環境活動の意識が向上するのではないのでしょうか。営業で訪問したある施設では、毎月の水道と電気の使用量を金額に換算して掲示していました。帯広サイトの環境活動は、成果が目に見えるという点が、この取り組みと共通していますね。

神田 そうですね。環境に対する意識の違いは、あって当然で、EMSを全従業員に理解させるのは、ほぼ不可能に近い。この現実を踏まえて帯広サイトでは、環境活動に関して理解度の高い人が、別の人にわかりやすく噛み砕いて伝える、その人がまた別の人に伝えていく、という教育連鎖を実践しています。次の人の理解度が、自分の活動の結果というわけです。

吉識 たしかに、八王子サイトでも、環境活動の目標設定が不明確な場合に、従業員のモチベーションが低下したようでした。そこで、私たちは過去の実績数値に基づいて達成可能な目標値を掲げてみたところ、全社目標の達成につながることができました。教育訓練も大切ですが、目標を管理することで自然と意識が向上することもあります。「目標の捉え方」



出席者：(後列左から)ティエフビー 練馬ファシリティ 山本 裕夫/ティエフビー 製造部 倉持 啓一/商品開発部 吉識 あけみ/八王子工場 齊藤 公成/品質保証部 位田 隆/ティエフビー 練馬ファシリティ 上河内 孝行/営業推進部 黒田 義信/ティエフビー 製造部 三友 淳輔/内部統制部 大塚 康貴/ティエフビー 製造部 岩堀 友志/内部統制部 木崎 久美子/ティエフビー 製造部 井口 隆/帯広事業所 神田 俊之(前列左から)内部統制部 阿部 和彦/環境管理部 鈴木 直美/テフズードジャパン マネジメントサービス部長 河田 重治/内部統制部 吉野 裕/八王子工場 杜澤 時雄/宇部工場 永茂 裕子/内部統制部 大塚 実 (敬称略)

の大切さを感じました。

永茂 2006年度に稼働した宇部新工場では、新規配属従業員や期間雇用従業員がいることから、内部・外部監査でもEMSを浸透させるための教育を強化するよう意見をいただきました。2007年度は全体的なEMSの浸透が課題となっていますが、全員が環境活動を楽しめるようなテーマを設定して活動し、モチベーションの向上につなげたいと考えています。

内部監査を意欲向上のきっかけに

木崎 営業部門の多くは業務の合間に環境活動の記録を作成しているため、記録に一貫性がないケースが多いですね。特に環境活動が低迷しているサイトには環境管理部が直接、教育・指導にあたっており、現状よりも効率的かつ質の高い監査ができるようになると思います。こういったことがモチベーションの維持や向上につながると思います。

岩城 内部環境監査の指摘については本当の原因が追求できないことが多いのですが、客観的に考えてみると、目標や監視測定のあり方などに納得していないのではないかと思います。状況を改善するには、各サイトでは目標について十分理解してもらうことが必要であり、一方監査員としても一歩踏み込んで原因究明できるよう、スキルアップを目的とした教育を徹底しなければならないでしょう。

事業活動が与える環境影響を正確に把握し、循環型社会の形成を目指します

使用資源の低減化、グリーン購入の推進により、事業活動を通じて環境に負荷を与える排出物質の低減、さらには環境影響を考慮した製品製造からサービスに至るまで、環境負荷低減をインプット・アウトプットとして目標管理し、年次改善されています。

これからも、これらの目標を実現していくことで、環境循環型社会の形成を目指していきます。

エネルギー		水		紙	
電気	10,466.4 千kWh	上水	76.9 千m ³	コピー用紙	11.5 t
都市ガス	367.1 千m ³	地下水	0.9 千m ³		
LPG (液化石油ガス)	125.2 千m ³				
軽油	5.5 kL	化学物質		容器包装	
ガソリン	268.1 kL	PRTR物質*	0.8 t	ガラス容器	25.7 t
灯油	62.7 kL	原料その他	20.6 t	プラスチック容器	166.0 t
				ゴム類	4.5 t
				金属	6.9 t
				包装材料(紙)	146.5 t

INPUT



OUTPUT

大気		水域		廃棄物	
CO ₂	2,335.3 t	総排水量	55.7 千m ³	総排出量	572.1 t
PRTR物質*	0.045 t	公共用水域への排水量	23.7 千m ³	再資源化量	527.4 t
		下水道への排水量	32.0 千m ³	PRTR物質*	0.4 t
		BOD	0.3 t		
		COD	0.7 t		
		SS	0.6 t		
		PRTR物質*	0.2 t		
				容器包装 (工場廃棄分)	
				ガラス容器	3.6 t
				プラスチック容器	18.5 t
				ゴム類	0.5 t
				金属	4.5 t
				包装材料(紙)	13.1 t

* PRTR: 特定化学物質の環境への排出量及び管理の改善に関する法律 (Pollutant Release & Transfer Register)

グループ会社も含めた全社に、環境マネジメントシステムを導入しています

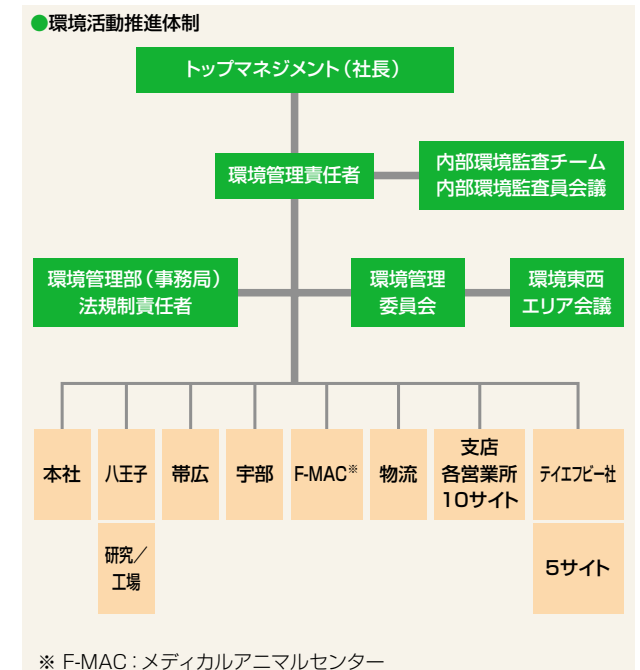
EMSの方針と概要

毎年、「環境方針」のなかから単年度において特に具体化して進める環境活動として、「EMSの方針と概要」が発信されます。2006年度は方針5項目、方針達成のための遂行事項16項目が提示されました。この内容はグループ会社を含めた「全社EMS」に組み入れられ、四半期ごとに行われる「環境マネジメントレビュー」において活動経過の進捗管理と経営サイドからの指導・改善指図が行われます。

環境マネジメント推進体制

社長以下、環境管理責任者(事務局含)、環境管理委員会、「環境東西エリア会議(営業所サイトで構成するテレビ会議)」と、下部組織として「サイト責任者」のもと「環境運営会議」や「環境管理分科会」が運営されており、EMSの浸透と継続的改善を推進しています。また、グループ会社の代表も環境管理委員会に出席し密接なコミュニケーション体制を構築しています。

EMSは全社統一の環境文書とサイト手順書で運用されていますが、サイト制を導入しているため、各サイトの環境における独自性(地域性)を追求できることが特長です。



法規制への対応

環境法規制責任者による各サイトへの最新環境関連法規改正情報の配信(隔月)と、法規制登録簿から監視測定リストによる順法体制の強化、エコプレイン等の法規制管理ツールを活用したネットワークの有効活用により判断基準に迷いがないうように努めています。企業倫理については全部署で倫理行動指針の定期的な読み合わせを継続し、従業員が無意識のうち、法規制を順守した行動がとれることを目指しています。

内部監査

内部監査の独立性を堅持するため、2005年11月に「内部監査室」が改編されました。推進事務局と内部監査員は完全に分離されており、監査の専門性と独立性が保証されるようになってきました。

内部監査の指摘を受けて、サイトの是正対応を推進事務局が確認・指導し、フォローアップ監査を内部監査室に依頼する体制になっています。



内部監査の様子

環境議論

2006年度は「環境システムの軽減化」、「本来業務における環境負荷低減」、「リサイクルについて」の3テーマについて全部署・全従業員が議論を交わしました。議論の結果は全サイト、生産研究サイト、営業サイト、事務系サイトで取り組む活動に仕分けし、環境活動を全従業員が本来業務として捉えて浸透させていくため、2007年度の具体化方針の中に施策として組み込んでいます。この施策をもとに活動を展開することで、全従業員の環境への意識向上に貢献しています。

今後も明確な単年度方針(項目によっては中期目標を含む)を掲げ、目標達成を目指して努力します

省エネルギーや省資源活動では、年々目標達成が難しくなり、新たな施策の展開や設備導入が必要になっています。廃棄物対策としては、2005年度から廃棄物の行方調査を実施し、リサイクルを推進したことで可燃物・不燃物ともに高い達成率となりました。今後はリデュース(省資源)に力を入れ、

「廃棄物を出さない活動」を推進します。
2007年度は「経済産業省：荷主対応マニュアル」に則って全社でデータ採取を行い、省エネルギーと地球温暖化防止への義務を遂行します。活動には可能な限り具体的な目標を設定し、地球環境保全にむけて今後とも努力していきます。

評価基準：◎ 目標達成 ○ 一部に改善が必要であるが目標としては達成 △ 実施はされているが実績としての評価ができない × 目標未達成

項目	環境目標(中期目標)	2006年度目標	2006年度具体的施策	2006年度実績*	評価	2007年度目標
省エネルギー・温暖化防止	電気使用量の削減	原単位前年度比電気使用量1%削減	省エネ設備導入、ノー残業デー、温度設定	達成率90.0%	×	原単位前年度比1%削減(中期3%)
	ガソリン使用量の削減	2006年分計画エコカー(ハイブリッド)導入	2WD車全面切替、公共交通機関利用推進	全面切替達成度82.4%、新規1台/更新5台の導入(累計61台)	◎	2007年度計画エコカー導入(リース切替時)
		燃費の向上		空気圧の管理、エコドライブ推進	エコドライブの定着	○
省資源・廃棄物削減	CO ₂ 排出量の削減	原単位前年度比CO ₂ 排出量1%削減	電気、ガソリン、ガス使用量削減	達成率85.7%	×	原単位前年度比1%削減(中期3%)
	OA用紙購入量の削減	原単位前年度比OA用紙購入量2%削減	電子化によるペーパーレス化・裏面使用の推進	達成率100.0%	◎	原単位前年度比2%削減(中期6%)
	廃棄物の削減	原単位前年度比可燃性廃棄物2%削減	分別徹底、行方調査によるリサイクル化	達成率141.7%	◎	原単位前年度比2%削減(中期6%)
原単位前年度比不燃性廃棄物3%削減		埋め立てからリサイクルへの活動	達成率147.2%	◎	原単位前年度比3%削減(中期9%)	
ゼロエミッションへの試行(不法投棄リスク軽減)	検査機器の熔融炉処理拡大(機器部品の再資源化)	広島・福岡地区委託処理拡大	拡大委託契約締結	収集運搬業者選定が難航し遅延	×	熔融炉処理拡大(東北地区)
法規制	環境法規制管理の徹底	改正省エネ温対法対応(荷主t-kgデータ) 改正廃掃法対応(契約書追記事項)	荷主範囲の決定とt-kgデータ化 更新時追記と廃棄物データシートの共有	荷主範囲年間データ収集実施 契約更新時委託先とのWDS共有化実施	◎ ○	省エネ・温対法対応(荷主義務遂行&CO ₂ 換算変更) 改正法規制・条例への対応(廃掃法)
製品における環境配慮	製品アセスメント基準書の具現化	製品アセスメント手順書作成と実施	製品アセスメント状況の環境管理委員会への定期報告	環境管理委員会にて定例報告実施	△	製品アセスメント実施状況報告(環境管理委員会)
環境文書	環境文書管理体制の理解	マニュアル改訂にともなう 下位文書改訂スピードアップ サイト手順書の全社体系組み込み	レベル2文書改訂期限1カ月短縮(3月)	レベル2文書3月末全改訂完了 (レベル3文書サイト手順書の全社登録完了)	◎	単年度全環境文書定期改訂の継続
運用管理	産廃処理委託先管理	処理場を含む信頼性評価の実施	産廃処理基準書による業者評価の実施	2006年度対象委託先18社および処理場評価完了	◎	信頼性評価の実施継続
	グリーン購入の推進	各サイト推進策の遂行	文具類、その他範囲拡大	各サイトグリーン購入推進実施、 全社データ調整中	△	紙製品のグリーン購入基準の制定
	エコオフィスの推進	エコオフィス管理の徹底	各サイトエコオフィス手順書の順守	エネルギー削減計画への反映未達成	×	エコオフィス管理の徹底
環境教育	単年度環境教育方針の遂行	2006年度環境教育方針の遂行	全サイト2006年度方針に沿った計画と進捗管理	サイト・部署別2006年度計画実施完了 (各サイト・部署教育記録・進捗表管理)	○	2007年度環境教育方針と概要の遂行
環境コミュニケーション	産廃委託先との外部コミュニケーション	法順守への約束と回答記録保管	対象サイト順守状況の報告と確認	処理委託契約全28社の回答受理完了 (6月全サイト記録登録完了)	◎	委託先への法順守の約束継続
	環境報告書発行	環境報告書2006発行	企画案の承認、2006年8月発行期限	計画通り進捗し2006年8月発行完了	◎	環境報告書2007発行
	内部コミュニケーションの充実	2006年度全社環境議論実施	テーマ提起と議論レビュー・改善策への展開	改善策：全社4件、サイト別6件を2007年度目標に設定	◎	2007年度全社環境議論実施と是正展開
環境ISO	ISO14001外部監査への対応	2006年度ISO14001定期監査への対応	事務局主導による各サイトEMS状況の指導・支援	2006年9月ISO14001定期監査完了 (認証維持)	◎	ISO14001更新監査への対応 (グループ会社の認証拡大支援)
内部環境監査	内部監査の強化・充実	2006年度内部監査方針の遂行	2006年度方針と監査計画(社長、環境管理責任者および20サイト)に基づき実施	2006年度計画/実施・監査レビュー完了 (社長、環境管理責任者および20サイト)	◎	2007年度内部監査方針の遂行
社会貢献	業界専門紙発刊の継続	学術叢書「2006メディコピア」の発行	学術サービス部起案による施策	2006年7月メディコピア第47号発行完了	◎	「2007メディコピア」の発行
	教育講演シンポジウムの開催	2006年度メディコピア開催継続・セミナー開催	教育講演シンポジウム「21世紀の対がん戦略」	2007年1月8日 第27回メディコピアシンポジウム開催	◎	2007年度開催の継続
	広範囲な血液事業への貢献	日赤への貢献	学術・技術支援による貢献策	学術・技術支援実施	○	2007年度貢献への継続
	地域貢献	事業所地域への貢献	八王子事業所夏祭り開催、各サイト自主的地域清掃	2006年7月21日 夏祭り開催、各サイト計画実施完了	○	2007年開催・貢献の継続

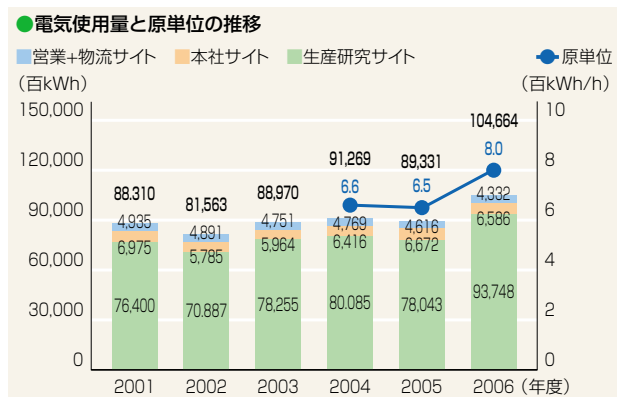
* 2006年度5月から稼働の宇部新工場は、本年データ取りのため、2006年度実績より除外しています。

資源やエネルギーの無駄をなくし、地球環境にやさしい事業活動を展開します

電気使用量削減の取り組み

2001年度から電気使用量の削減に取り組み、各具体的削減項目の徹底管理により2002年度までの2年間で13.6%の削減を達成しましたが、その後は生産量の増加にともない総使用量が増加しています。2005年度は、全従業員による節電活動に加え、省エネ設備の更新などにより前年比2.1%（原単位で1.2%）の削減ができましたが、2006年度は宇部新工場の稼働により、対前年度比17.1%（原単位で23.5%）の大幅増加となりました。

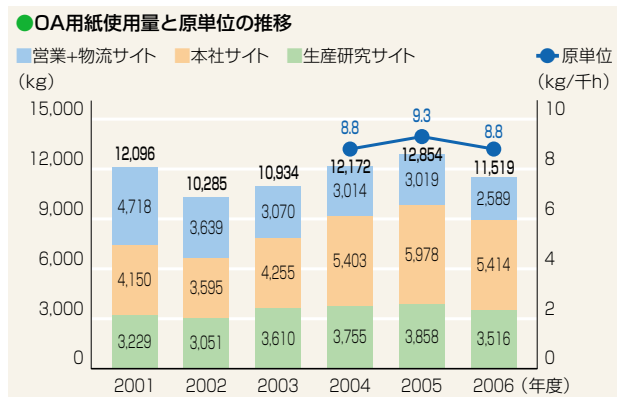
生産研究サイトでの使用量の占める割合が約9割と高いため、2007年度は当該サイトでの使用削減目標1%を達成するとともに「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例」対応による省エネ設備の導入を図ります。



OA用紙使用量削減の取り組み

OA用紙使用量削減への取り組みとして、コピー用紙の両面利用、環境文書の電子化、非印刷物の管理徹底などを行い、取り組み開始から2年間で従来の使用量の55.7%削減を達成しました。しかし、それ以後は薬事法対応や販売促進用資料増加などにより、使用量が年々増加しました。2006年度は全社的に削減活動を展開した結果、対前年比10.4%（原単位で5.5%）と大幅な削減を達成しました。

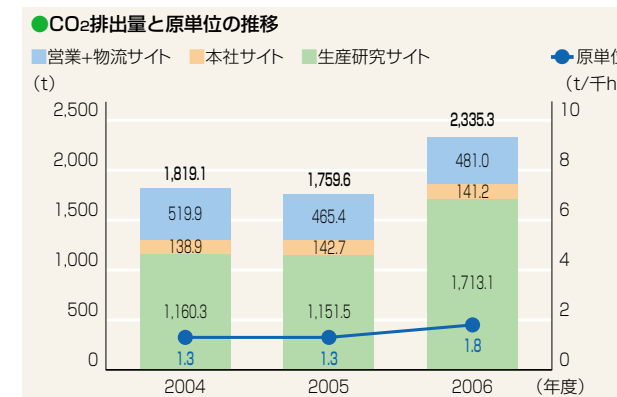
2007年度は、全社で1%削減を掲げて取り組みますが、特に使用量の多い本社サイトは目標を1.2%削減とし、いっそうの削減管理を目指します。



CO₂排出量削減の取り組み

CO₂排出量の削減に関しては、「京都議定書の発効」に合わせて2005年度より全社目標を設定しました。CO₂排出源として都市ガス、ガソリン、LPG、灯油等があり、2005年度は、対前年比3.3%（原単位で2.4%）減の1,760tでしたが、2006年度は、インフルエンザ試薬の市場要望に基づく生産量の増加に対応すべく宇部新工場を稼働したことにより、対前年比32.7%（原単位で39.9%）の大幅増となりました。

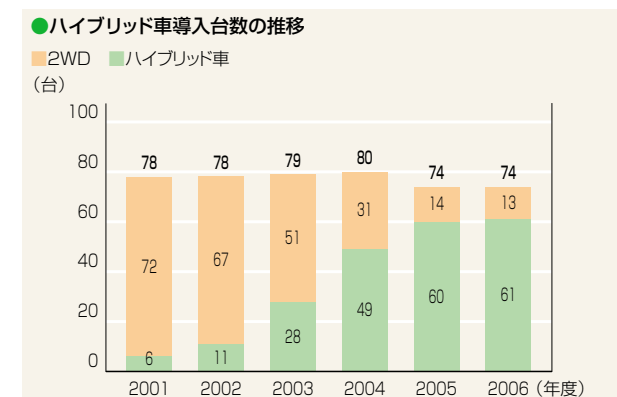
2007年度は、全社で対前年比1%の削減を目標としており、引き続き各種エネルギー使用量節約および省エネ設備の導入による達成を目指します。



営業車へのハイブリッド車の導入

2001年のISO14001認証取得時に「エコカー導入」を目標とし、営業車へのハイブリッド車の導入を決定しました。順次切り替えを進め、2006年度実績では全営業車74台中61台まで配置を推進しました。2006年度は、ハイブリッド車導入から5年が経過したこともあり、初期導入ハイブリッド車から最新型ハイブリッド車への変更を始めました。

2007年度以降も、MR(医薬情報担当者)、TR(テクニカルサービス情報担当者)へのエコドライブ教育をさらに徹底するとともに、可能な地域では公共交通機関利用を推進し、営業車自体の削減にも努めます。



COLUMN

EMSに積極的に取り組みます(テイエフビー製造部サイト)

テイエフビー製造部サイトは、特に廃棄物の分別・管理の徹底に力を入れています。廃棄物は可燃物・不燃物・感染性廃棄物に分別し、有機溶剤・放射性物質の廃液管理を行っているほか、ダンボールや使用済み文書のリサイクルも進めています。今後は全従業員が一丸となって環境マネジメントシステムについて学び、実践するとともに、富士レボグループの一員として環境保全活動に積極的に参加していきます。

(サイト責任者 鉄本 融)



COLUMN

はまのEMS活動～みらいに向けて(横浜サイト)

横浜サイトは6名で活動している小さなサイトです。環境会議では、環境負荷を低減できない項目について原因となっているのは何か、そして低減させる方法・アイデアについて、全員で知恵を絞って考えることで、一人ひとりが自覚を持って環境活動に取り組んでいます。小さなサイトの小さな活動ですが、その積み重ねが住みよい横浜の未来につながっていくと確信しています。

(環境担当 西村 仁志)

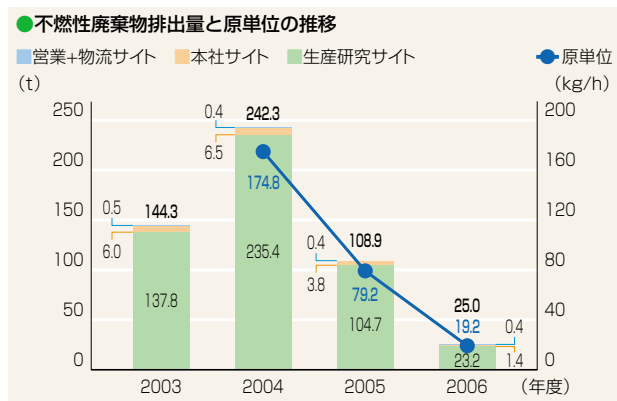
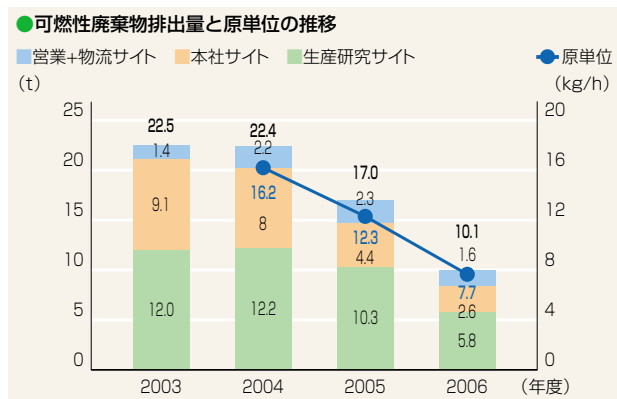


廃棄物排出量の削減と適正処理の推進

廃棄物排出量は、可燃性廃棄物の総量が前年比40.5%（原単位で37.4%）減の10.1tでした。特に八王子サイトでの分別の徹底、従来再資源化できなかったペーパータオルや紙コップなどの廃棄物の再資源化を行ったことが貢献しています。

不燃性廃棄物についても、前年比77.0%（原単位で75.8%）減の25.0tでした。これは、帯広サイトで行った実験動物糞尿処理後の汚泥を再資源化した効果が大きく影響しています。それ以外の不燃性廃棄物についても、サーマルリサイクル推進などによる再資源化を進めています。

2007年度は、可燃性廃棄物を前年比2%、不燃性廃棄物を前年比3%削減するという目標を掲げて取り組みます。よりいっそうのリサイクル化を目指し、可燃性廃棄物については生産研究サイトで4%、本社サイトで2%の削減、不燃性廃棄物については生産研究サイトおよび本社サイトで3%削減という目標を設定し、全社目標の達成を図ります。また、「ゼロエミッションへの試行」段階として、熔融炉処理委託先による検査機器・部品等の全面再資源化を、東北地区に拡大する予定です。



COLUMN

地域の安心・安全に貢献するために(八王子サイト)

八王子サイトでは、2006年6月にAED*搭載自動販売機を設置しました。文字通り自動販売機にAEDが搭載されており、サイト内ばかりでなく近隣地域での緊急事態への備えとして設置したものです。有事の際には自動販売機からAED機器を取り出して電源を入れることで、音声で操作手順や方法が指示され、それに従って除細動を実施することができます。

八王子サイトには、AEDの取扱資格者約20名(2006年3月現在)が勤務し、必要に応じて取り扱いの研修や実習を行っています。今後も設置サイト、取扱資格者を増やしていくことにしています。

(八王子総務グループ 齊藤 好広)



AED搭載自動販売機

* AED : Automated External Defibrillator=自動体外式除細動器
八王子事業所「AED搭載自販機」は、2006年9月15日放送のNHKニュース「おはよう日本」で紹介されました。

化学物質管理

有害化学物質の購入量および排出量などは法令に従って管理し、適正な使用・保管管理を徹底しています。当社の有害化学物質取扱量は1t未満なので報告義務はありませんが、大気

中や水域への環境影響を考慮し、可能な限り自社での除去処理や廃棄物として適切な処理を実施しました。その結果、2005年と比較して大幅な改善が見られています。下表にはPRTR対象物質のなかで年間取扱量上位10位の化学物質を記載しています。

(単位: kg)

物質名	取扱量	排出量			移動量		消費量	除去処理量
		大気中	水域	土壌	廃棄物	下水道		
1 ホルムアルデヒド	242.7	5.2	164.0	0.0	72.7	0.8	0.0	0.0
2 アセトン	210.5	0.0	0.0	0.0	210.1	0.0	0.4	0.0
3 メチルエチルケトン	131.0	39.0	0.0	0.0	92.0	0.0	0.0	0.0
4 塩酸	123.9	0.0	0.1	0.0	0.0	11.3	112.3	0.2
5 硫酸	25.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.3	0.0
6 グルタルアルデヒド	18.7	0.0	0.0	0.0	0.1	18.6	0.0	0.0
7 メタノール	11.6	0.0	0.0	0.0	11.0	0.0	0.6	0.0
8 アセトニトリル	9.1	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0
9 界面活性剤	6.9	0.0	3.5	0.0	0.2	3.2	0.0	0.0
10 クロロホルム	3.1	0.1	0.0	0.1	2.1	0.0	0.8	0.0

TOPICS

無理せず、地道な活動を継続しています(帯広サイト)

帯広サイトでは、事業活動を通じた「無理のない環境活動」をモットーに、パートナー社員・嘱託社員も含めた全員での環境保全活動を行っています。全社目標である、電気・OA用紙使用量削減、廃棄物・CO₂排出量削減にむけて、日々身近なところから削減に努めています。

サイト独自の目標として、生産系では原料調製時の工程改善による環境負荷低減活動を行っています。2007年度には、仕掛原料の収率向上や環境負荷を低減できる機器の導入を実施する予定です。研究系では、製品アセスメント実施による環境負荷低減を目指します。

また、地域美化活動の一環として、サイト周辺の清掃活動を10年以上継続して行っているほか、2006年度からエコフレンズ活動*に参加し、市内の公共地域の清掃活動を従業員とその家族で実施しています。

* エコフレンズ活動：帯広市(ISO認証取得自治体)環境課が取り組んでいる市内の清掃活動

2007年度は新たに、地球温暖化防止を目的とした植林活動を実施する予定です。「無理せず」「楽しく」「地道に」環境保全に取り組んでいきます。

(環境担当 神田 俊之)



工場近くの市道で清掃活動



集め終わったゴミの山(45Lゴミ袋7袋分を回収)

それぞれの事業活動に合わせた、独自の環境活動を推進しています

特色ある環境活動

各サイトでは、それぞれにテーマを設定して環境活動を行っています。その一部をご紹介します。

■小さな環境活動でもみんなの気持ちの積み重ねが大事だよ (本社サイト)

本社で特定された環境負荷項目に対し削減目標を掲げ、環境管理分科会を通して全体と部署別に分けて活動を展開しています。2005年から環境にプラスの側面活動として昼食弁当用の割り箸リサイクルに取り組み、すでにOA用紙換算で約2,500枚に達しました。今後も環境によい活動を広め結果的に地域社会にも貢献できるように実績を積み重ねていきたいと思っています。



(環境担当 佐野 均)

割り箸集めも環境活動の一つです

■みんな一緒にきれいなまちにしようよ! (西日本支店サイト)

地域環境美化活動の一環として、大阪市一斉清掃「クリーンおおさか」に毎年参加しています。2007年は世界陸上を控え、国内外から訪れる様子を「きれいなまちおおさか」でお迎えします。このようにきれいなまち大阪・きれいなくに日本・きれいなわくせい地球の環境を目指したいですね。

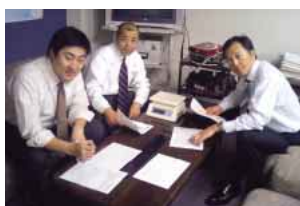


(西日本支店サイト責任者 大脇 英昭)

「クリーンおおさか」での清掃活動

■スローライフな暮らしも、なまらいんでないかい (札幌サイト)

札幌サイトは「身近なことから、できることから、無理をしないで、無駄をなくす」をモットーに、オフィスはもちろん家庭でもエコライフを実践しています。自然や生き物を「やさしい気持ち」で考えるのと同様に、地球環境にもやさしくありたいと思います。



(環境担当 田中 智之)

会議の様子

■いまの行動がいつもエコロジー (本社サイト内東日本支店)

関東甲信越エリアを活動拠点としていますが、営業活動が車両中心ということもあり、常にガソリン使用量の削減(=CO₂削減)に気を配っています。ハイブリッド車の導入、ノーカーデーの実施、空気圧の調整、エコドライブの定期教育に加え公共交通機関の利用推進を図っています。常にいつもエコロジーを合言葉に日々がんばっています。

(環境担当 柳 耕二)



会議を通じて知識共有

■環境負荷低減に向けて新たな挑戦!! (宇部サイト)

宇部サイトでは、2006年から新工場が稼働したことにより環境負荷が増加しました。2007年度活動は、その増加分をいかに削減していくか、我々の「英知と努力」が試される年になります。「チーム・マイナス6%」の参加に加え、さまざまな環境負荷低減に挑戦し、結果としてCO₂削減目標を達成します。

(環境担当 永茂 裕子)



自動車の環境負荷低減も課題

■環境への正しい知識と正確な情報を共有します (北関東サイト)

北関東サイトの活動エリア内の移動はやはり車両が中心でガソリン使用=排ガス・CO₂排出=温室効果ガス(地球温暖化)への影響を常に考えています。お客様との会話でも環境が話題にならない日はないくらい地球環境を考えることは当たり前になっています。地球からみれば小さな活動でも、環境情報を共有化しながら一歩一歩進めています。

(北関東サイト責任者 伊藤 直也)



環境報告書の読み合わせで知識共有

社会とのよりよい関係を目指して、企業としての社会的責任を果たします

地域社会との良好な関係を構築するために

当社は、地域の皆様との交流を通じ、事業活動への理解を得るとともに、地域社会に貢献することを目指しています。

この一環として医学的な知識や情報を提供する学術・文化活動として、毎年「メディコピア教育講演シンポジウム」の開催と、学術叢書「メディコピア」を発行しています。今年で27回目を迎えた「メディコピア教育講演シンポジウム」は「21世紀の対がん戦略」と題して各病院の先生方にご講演いただき、一般の方々を含め1,395名の方が出席されました。

〈2008年開催予定：1月13日(日)国際フォーラムCホール(有楽町)〉



メディコピア教育講演シンポジウム

■株式会社エスアールエル(事業会社)と合同で夏祭りを開催(八王子サイト)

八王子サイト(生産研究系の最大サイト)では毎年、地域社会との交流を目的とした夏祭りを開催しています。2006年度は7月21日に、八王子サイトに隣接するエスアールエルの事業所と合同で行い、2,000名を超える地域の皆様にご参加いただきました。

2006年度の夏祭りでは、「みらかHDグループ」の一員として、グループおよび両社の事業内容を地域の皆様にもっと理解していただくこと、両社の親睦を深めることを目指し、両社の役員や従業員約40名がボランティアで参加。会場設営などの準備から運営までを行いました。

当日は、従業員による模擬店の出店や特設ステージでのショーに加え、企業紹介と環境活動に関するQ&Aなども行って、地域の皆様との交流を深めました。恒例となった

50発の打ち上げ花火も好評で、会場が歓声で包まれるなか幕を閉じました。終了後は地域の皆様にもご協力いただき、ゴミの回収・分別を行うなど、環境にも配慮するよう心がけました。

開催直前まで雨が降っていたこともあり、例年会場としていたグラウンドが使用できず、急遽事業所敷地内での開催に変更するなどのハプニングもありましたが、PTA・子ども会・小学校の先生方からは、「敷地内で開催していただき、とても安心でした」と感謝のお言葉をいただきました。また、参加いただいた方からは、この夏祭りは夏が来たことを感じさせる恒例行事として楽しみにしている、また来年も参加したいとの声もいただきました。

2007年度はより多くの従業員の協力と参加を呼びかけ、さらに充実した内容にしたいと思えます。



祭り開始直前の打ち合わせ風景



特設ステージでのショー



模擬店も大繁盛

本年3号目となる富士レビオの環境報告書は、今回さらに環境に対する「想い」や「考え」が第三者に伝わるよう工夫されています。特にコラムやトピックスを多く取り上げ富士レビオ全体を構成する各サイトの地域性、独自性を大切に、環境活動全体を盛り上げて行こうとする積極的な姿勢が自然体のなかで感じられるのは特筆すべきかと思われます。

私どもテュフズードジャパン(株)が審査する際には審査員が必ず同社の環境報告書を携帯しており、サイトの環境活動動向の予備知識や紹介されている活動の実態等をつぶさに照合することが出来ますし、事務局の方からは「当社の環境報告書を一番活用され、掲載内容を検証されているのは審査員の方々ですね」と言われて微笑みを隠し切れなかったとの報告を聞いて嬉しくなった思い出があります。

例年掲載されている「環境座談会」は本号では趣向を変えられて当社の審査員がお邪魔しての報告ですが、内部環境監査員の方々と「ISO 14001規格解釈討論会」の輪の中に入り忌憚のない意見を言わせていただきました。内容は非常に充実した環境への想いが伝わる有意義な議論が展開されたように聞いています。規格解釈上の疑問・質問や環境の継続的改善のためには規格をクリアすることはもちろん、本業の環境負荷低減活動へよりシフトさせて地域への貢献、コンプライアンス重視、社会への信頼性確保、企業価値の向上へ向けて進むべきとの意見が結論だったかと思えます。紙面の都合上かなり割愛されており事務局の方々のご苦労が伝わってきます。

富士レビオグループとして多人数サイトから少人数サイトまで環境ISO認証を網羅されておりますが、本年も新たに仲間入りしたサイトの認証拡大が予定されています。今後の課題とも思われますが、各サイトの独自性を重視しながらも富士レビオの環境マネジメントシステムを今以上に如何に温度差のないレベルにもって行けるか、環境活動ではエコ活動と言われる裏側を覗き検証してみ、真の意味での環境への取組みとは何かを当社が全社で毎年実践されておられる「環境議論」の中でこれも継続的に意見交換していただいて地球環境保全への取組みの中に反映させていただければと願っております。

最後に私どもが本年同社の鈴木社長と直接面談し、環境について品質について具体的に意見交換し合い、その人柄と理路整然とした真摯な姿勢には感服いたしました。トップの環境に対する想いが従業員の方々に浸透しているのは至極当然と感じました。

そして毎年楽しく「富士レビオ環境報告書」を読ませていただきお礼を申し上げますと同時に次年度以降の発行についても楽しみにしております。



テュフズードジャパン株式会社
代表取締役
イェンス・ブテナント

“From Germany”

今年3回目の環境報告書が富士レビオ株式会社から出されることは誠に喜ばしいことと思えます。私どもテュフズードマネジメントサービスはこの7年間御社のISO 14001認証を実施してきましたが、最初から御社が自社のすべての事業活動、すべてのサイトを認証範囲に入れて環境マネジメントシステムを構築されたことが日本の審査チームからレポートされております。そしてそのすべてのサイトにおいて、そのサイトにふさわしいEMSを実践されているとの報告を受けています。これは世界的にもあまり例を見ないことで、富士レビオを率いる経営陣の強力なリーダーシップと深刻な環境問題をよく理解されていることの現れと確信します。

また、同社はCSR活動にも従前より取り組まれている歴史があるとのこと、少人数の営業所から本社機能の大きなサイトまですべての従業員が参画し地道に日々EMS活動を行い、地域・業界・日本・世界に寄与するという世界に誇るべき一つのモデルであり続けてほしいと願います。



テュフズードマネジメントサービス
GmbH
環境マネジメントシステム認証統括
ミハエル・シュレヒト

当社の環境報告書は、今年で3年目を迎えました。今回は、編集方針にも明示いたしました通り、さらなる環境への想いの伝わる報告書へということで、各サイトの環境活動や地域貢献についての生の声を多く取り上げております。環境パフォーマンスでは、読者の方々が見やすいよう、デザイン面にも配慮いたしました。また、環境座談会では、審査機関のテュフズードジャパン社のマネジメントサービス部長をお迎えして「環境ISO規格解釈」をテーマに、当社グループの内部環境監査員と事務局で、我々の究極の目的でもある「環境活動と本来業務の融合」、「環境マネジメントを円滑に機能させるためには」、「内部監査を意欲向上のきっかけに」といった非常に前向きで問題点を直視した議論が展開されました。

EMSに基づいた環境活動を開始して以降、環境目標を大幅に達成できた時期は過ぎて削減活動そのものが厳しい状況になってきておりますが、持続可能な活動を合言葉に環境活動の中心を「本業と環境との融合」、「環境にプラスになる活動」へとシフトしています。

今回第3号の環境報告書発行にあたり、ご協力いただきました内外の皆様、第三者意見をお寄せいただいた審査機関、認証機関の皆様にご感謝申し上げます。

「富士レビオ 環境報告書 2007」をお読みいただき、忌憚のないご意見をお寄せいただけますよう、心からお願い申し上げます。

信頼性保証部門 環境管理部
EMS管理グループ 鈴木 直美

発行部署
富士レビオ株式会社 信頼性保証部門 環境管理部
東京都中央区日本橋浜町2-62-5
問い合わせ先
富士レビオ株式会社 環境管理部
TEL : 03-5695-9204
FAX : 03-5695-9230
発行月
2007年8月
ホームページ
<http://www.fujirebio.co.jp/>



本報告書では、環境配慮型の植物性大豆インキと、「改正グリーン購入法」対応の「FSC認証紙 (CoC認証)」を使用しています。